

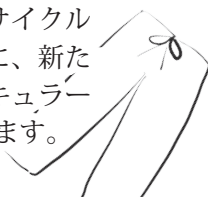


# 衣類のリユース・リサイクルの現状と 新たなリサイクル手法への挑戦



環境省の資料(2020年)によると、家庭から使用後に手放される衣類は75.1万トンと推計されています。家庭から手放される衣類の処分方法としては、リユースが20%、リサイクルが14%、焼却・埋め立てが66%となっています。

リユースとリサイクルの需要は減少傾向が続いていますが、その一方で、衣類の新たなリサイクル手法への挑戦も行われています。今回の市民ごみ大学セミナーでは、衣類のリサイクルの現状と課題について古繊維問屋のナカノ(株)に具体的に説明していただくとともに、新たなリサイクル手法への挑戦として、衣料廃棄物の紙原料への利用を一般社団法人サーキュラーコットンファクトリーに、衣料廃棄物の堆肥化をクレサヴァ(株)に紹介していただきます。



## 繊維リサイクルの 現状と課題

～サステナビリティとエコソフィ～

ナカノ株式会社 取締役 リサイクル部統括  
藤田 修司 さん

我々、故繊維業界は100年ほどの歴史ある業界であり、戦前戦後、高度経済成長、廃棄物問題等、経済等の変化により、衣料品の製造や消費も様変わりしてきました。

そしてここに来て国連開発貿易会議でファッション産業は世界で第二位の汚染産業とみなされてきています。

このような状況の中で、古来からあるリサイクルシステムや課題、昨今進んできているリサイクル技術との融合など、これからの衣類との付き合い方でヒントとなれば幸いです。

## 衣類を「ごみ」から「資源」に

～繊維の廃棄物から「紙」を作り活用する～

一般社団法人サーキュラーコットンファクトリー 代表理事  
渡邊 智恵子 さん

環境問題の大きなテーマである廃棄をテーマに活動を行っております。現在、世界のごみの14%を占めている繊維のごみ問題。国内では年間約137万トンの繊維の廃棄物がごみとして処分されていますが、当社はこれを活用すべく紙づくりをはじめ、循環型ビジネスにとりこんでいます。

## 廃棄衣類から生成した肥料で野菜作り

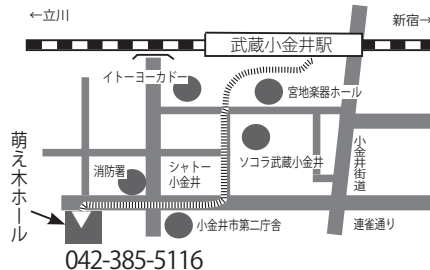
～目指すのは衣と食の循環モデル～

クレサヴァ株式会社 代表取締役社長  
園部 皓志 さん

当社は、ファッション業界が抱える大量生産・大量廃棄の問題解決に挑んでいます。天然繊維のみならず化学繊維も、破碎・粉碎・発酵し、円柱状のペレット(肥料)を造る特許技術を取得しました。今後、百貨店や商業施設に回収ボックスの設置を進め、年間5000トンの衣類回収を目指します。

会場 小金井市市民会館 (商工会館3階 萌え木ホール)

武蔵小金井駅 南口 徒歩7分



申込み不要。  
直接会場へおいでください。

参加費(資料代)  
会員・学生：無料  
一般：500円

## ごみ・環境ビジョン21

〒184-0013  
東京都小金井市前原町4-11-15 井上方  
TEL: 080-9291-3623 / 080-1131-6205  
FAX: 042-383-1668  
e-mail: gomikan21@yahoo.co.jp  
HP: <https://gomikan21.com/>

042-385-5116